

第15回 全国障害者スポーツ大会 2015 紀の国わかやま大会

大会報告書

一般社団法人
札幌市障がい者スポーツ協会

● はじめに ●

全国障害者スポーツ大会は、平成12年まで別々に開催されていた「全国身体障害者スポーツ大会」と「全国知的障害者スポーツ大会」を統合した大会として、平成13年に第1回大会が宮城県で開催されました。以降、オリンピック終了後に開催されるパラリンピックのように、毎年、国民体育大会終了後に、同じ開催地で行われております。

この大会は、障がいのある選手が競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいのある人々に対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的とした障がい者スポーツの全国的な祭典です。

第15回大会となる「2015紀の国わかやま大会」は、10月24日～26日までの3日間の会期で「躍動と歓喜、そして絆」をスローガンに和歌山県で開催されました。全国から47都道府県と20政令指定都市の選手団約5,500人が参加し、個人競技6競技、団体競技7競技及びオープン競技が和歌山市や紀の川市など県内7市町村で実施されました。

札幌市は、選手、役員79名の選手団が5泊6日の日程で参加し、期間中は朝晩の冷え込みや強風、早朝の移動など、選手の体調管理が心配されましたが大きなケガ等もなく元気に帰札いたしました。

成績は、陸上競技で1件の大会タイ記録と2件の大会新記録、水泳競技で3件の大会新記録を樹立する好成績を収め、メダル数も過去最高の44個（金メダル22個、銀メダル14個、銅メダル8個）となりました。各競技会場では、沢山のあたたかい応援をいただき、障がい者スポーツの意義やすばらしさを共有し、障がい者に対する理解と交流の輪が広がる思い出深い大会となりました。

この報告書では、大会の様様や多くの人々に夢と感動を与えてくれた札幌市選手団の動向を写真を中心に紹介し、「2015紀の国わかやま大会」を振り返ります。

結びに、何かとご多忙中にもかかわらず、事前の強化練習指導や期間中の選手のサポート等にご尽力された監督、コーチ等の役員の皆様と、選手の出場にあたり、快くご理解、ご協力をいただいたご家族、職場の同僚、各関係団体など、多くの皆様に厚くお礼を申し上げます。

また、報告書に掲載した札幌選手団の活躍や雄姿、満面の笑顔等を通して、一人でも多くの人々が障がい者への理解を深められ、今後、一層の障がい者スポーツの普及、振興の一助になれば幸いです。

選手団の主な日程

- 10月22日（木） 結団式（札幌市役所） 終了後、新千歳空港から関西空港へ向けて出発
 10月23日（金） 競技別の公式練習
 10月24日（土） 開会式（紀三井寺公園陸上競技場） 終了後、各競技場で競技
 10月25日（日） 各競技場で競技
 10月26日（月） 各競技場で競技 閉会式（紀三井寺公園陸上競技場）
 10月27日（火） 関西空港から新千歳空港へ向けて出発 解団式（札幌市役所） 終了後、解散

競技別のメダル獲得数

陸上			水泳			卓球			ボウリング			フライングディスク			サッカー
金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅	銀
11	8	3	8	1	3	1	3	1	0	1	0	2	0	1	1

札幌市選手団は、個人、団体合わせて金22個、銀14個、銅8個の計44個のメダルを獲得しました。なお、競技別の選手の記録は、スポーツ協会だより第36号をご覧ください。

結団式

木下障がい保健福祉担当局長から「大会に参加される皆さんは、大勢の選手の中から選ばれた札幌市の代表として、これまでの練習の成果を十分に発揮されることを期待しております。楽しい思い出をたくさん作り、怪我にはくれぐれも気を付けて、元気に帰ってきてください。」との挨拶



サッポロスマイルのロゴの入った帽子、ジャージ、ウィンドブレーカーを着用して、結団式に臨む選手団

SAPPORO

（サッポロスマイル）は、食や自然、四季折々の様々なイベントなど、多くの魅力的な資源に恵まれた「笑顔になれる街」札幌をイメージしたロゴです。



浅香団長への団旗授与
横旗手を務める陸上の湯上選手



ボウリングの平野井選手（左）と卓球の青木選手（右）の選手宣誓

出発時



気持ちはすでに
紀の国和歌山に

大勢の家族、友人、関係者等に見送られ、新千歳空港に向う選手団

歓迎セレモニー



関西空港で和歌山県職員やサポートボランティアの皆さんの
おもてなしの心で、温かく迎えていただきました



「今日から6日間お世話になります」と長谷川副団長の挨拶

公式練習



各競技会場での公式練習に参加し、
いよいよ翌日からの競技を前に、最後
の調整に汗を流す選手とこれをサポー
トする監督、コーチ

開会式

日程：平成27年10月24日（土）

会場：紀三井寺公園陸上競技場

皇太子殿下から「2020年の東京パラリンピックに向け、障がい者スポーツがより一層発展するとともに、障がい者の理解がさらに深まることを希望します」「選手同士はもちろんのこと、ボランティアの方々や地域の皆さんと出会い、ともに楽しみ、交流を深め、たくさんの思い出を作ってください」とのお言葉がありました。

皇太子殿下のご臨席の下、紀三井寺公園陸上競技場において、開会式が盛大に開催されました。



開会式では、全国から集った選手団のほか、観覧者、大会関係者約1万5千人の観客が見守る中、約2200人の選手団が堂々と入場行進。

札幌市選手団は、奈須野副団長を先頭に、旗手を務める湯上選手ら32名が、札幌市の花のすずらんを持ちながら行進。



炬火は、オリンピックの聖火にあたるもので、開会式において炬火台に点火され、会期中の選手の健闘を祈ります。



約300人の県民が参加したオープニングの歓迎演技では、和太鼓やよさこい踊り、和歌山の自然や県ゆかりの偉人の功績などを躍動感あふれるダンスなどで表現し、会場を盛り上げました。



スタンドから札幌市の選手団32名に
温かい声援を送る役員

役員の激励

競技開始前に木下障がい保健福祉担当局長から激励を受ける選手、役員



各競技別の紹介

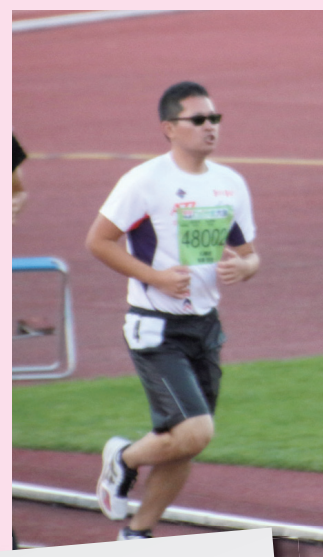
陸上



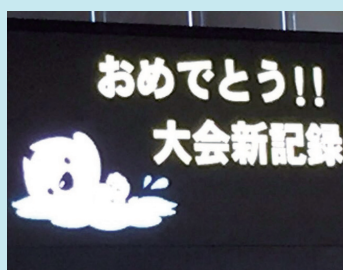
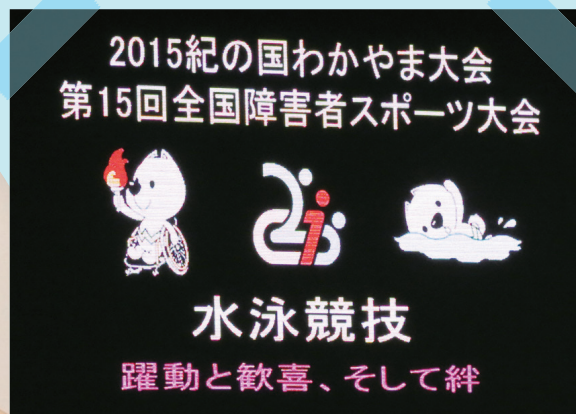
OFFICIAL RESULT
競技No. 3017 1組 男女 4x100mR
決勝

GR 47.02

1	南-伊藤-佐藤-岸川	札幌市	49.35
2	三浦-日毛-谷部-大高	茨城県	49.57
3	山口-梅木-西岡-西尾	島根県	50.23
4	熊原-濱井-下河-高月	岡山県	52.01
5	永澤-和田-成田-石ヶ守	青森県	54.05
6	永井-谷村-根本-菅野	相模原市	56.96
-	松村-西森-夏山-牛田	香川県	DQ
-		福井県	DNS



水 泳



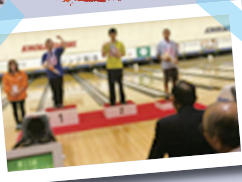
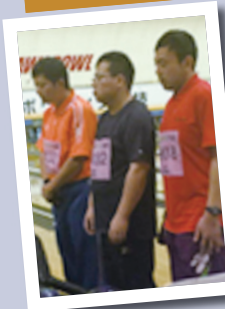
卓球



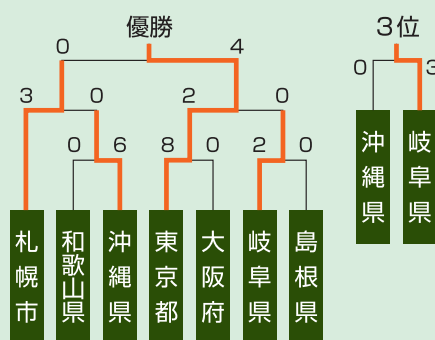
フライングディスク



ボウリング



サッカー



第1回大会から15回連続東北・北海道ブロック予選大会優勝の札幌市チーム。過去、全国大会では準優勝1回、3位4回の実績をもち、昨年の長崎大会では強豪東京都を破り、悲願の優勝を飾った。

初戦の沖縄県との戦いでは、終始試合のペースを握り、3対0で快勝したものの、決勝戦では、昨年同様、東京都と対戦し、惜しくも敗れたが、見事、準優勝となりました。

つかの間のひと時





閉会式

日程：平成27年10月26日（月）

会場：紀三井寺公園陸上競技場

最終日の26日、3日間にわたり、県内各地で熱戦が繰り上げられた「2015紀の国わかやま大会」の閉会式が高円宮妃殿下のご臨席の下、紀三井寺公園陸上競技場で行われました。約5300人の選手団をはじめ、関係者や観客ら約1万4000人が参加し、47都道府県と20政令指定都市の選手団が競技場内に整列し、“躍動と歓喜、そして絆”をテーマにしたスポーツの祭典の全日程を終了しました。

高円宮妃殿下が「選手同士が友情を育み、ボランティアや多くの地域の方々と絆を築かれたことは、皆さんの心に残る貴重な思い出となるでしょう」とのお言葉がありました。



この後、来年の開催地となる岩手県に大会旗が引き継がれ、祭典のシンボルである炬火（きょか）を納火しました。



ファイナルステージには、歌手の堀内孝雄さんが登場してヒット曲を熱唱し、フィナーレを飾りました。

県職員、サポートボランティアとお別れ



選手団を支えてくれたサポートボランティアは、県内の学生ら約1200人が参加し、選手への声援や荷物の運搬、弁当配付、ドリンクサービス、毛布の手配等大変お世話になりました。

関西空港で競技別に県職員から挨拶があり、ボランティアらがサッポロスマイルの小旗を持って見送り、別れを惜しんでいました。



帰札の準備が整い、思い思いに記念撮影に収まる選手団

解団式

解団式にあたり木下障がい保健福祉担当局長から「今回の大会で得た経験、友情、感動を糧に、選手の皆さまそれぞれが夢に向かってより一層ご活躍されますことをお祈り申し上げます」との挨拶。



浅香団長の大会報告

「選手の頑張りや監督、コーチ等の献身的なバックアップにより、日頃の練習の成果を出し切り、過去最高の成績を収めるなど、実りのある思い出深い大会となった」との大会報告。



長谷川副団長の成績報告

「札幌市選手団の成績は、金メダル22個、銀メダル14個、銅メダル8個となりました。また、選手全員が札幌市の代表として誇りを持って精一杯プレーした」との成績報告。



団旗の返還

スズポの 伝言板



「札幌市障がい者スポーツ大会すずらんピック2015」の出場者の中から選考された個人競技選手32名と、北海道・東北ブロック予選会で優勝したサッカーチーム16名は、大会までの3ヶ月余り

の間、一人一人がしっかりと目標を立て、体調管理に十分留意しながら強化練習や自主トレーニングに打ち込んできました。本番では、練習の成果を存分に出し切り、札幌市の代表として精一杯健闘されました。

選手の皆さん、そして、強化練習の指導や現地での選手のサポート等にご協力いただいた役員の皆様、本当にお疲れ様でした。

「笑顔になれる街」札幌 SAPP_URO

今、札幌は「札幌冬季オリンピック、パラリンピック」の招致実現に向けた期成会が設立されるなど、官民一体となって機運醸成に向けた様々な活動が本格化しております。事務局では、こうした活動を応援するため、札幌市のサッポロスマイルロゴ SAPP_URO を選手団のジャージやウィンドブレーカー、帽子、応援用小旗等を使用し、「笑顔になれる街」札幌のPRに努めました。

競技スポーツには、必ず勝ち負けがあり、嬉し涙と悔し涙がつきものです。でも、競技を終えた札幌市の選手は、勝っても驕（おごる）ることなく、負けても勝者に大きな拍手をおくり、「笑顔になれる街」札幌の選手に相応しいサッポロスマイルで選手団の輪に戻って来てくれた姿はとても印象的でした。



第16回全国障害者スポーツ大会 希望郷いわて大会

さて、来年は 10月22日～10月24日の日程で岩手県において「第16回全国障害者スポーツ大会 希望郷いわて大会」が開催されます。この全国大会出場には、「札幌市障がい者スポーツ大会すずらんピック2016」の参加が必要です。来年のすずらんピックは、例年通りに5月から6月にかけて開催いたしますので、多くの皆さんが全国大会を目指して参加されることを楽しみにしています。

最後に、報告書の製作にあたり、競技や選手の指導等の合間など、何かとご多忙の中、沢山の写真撮影にご協力いただいた役員の皆様と、大会を振り返り、所感を寄稿いただいた選手、役員の皆様に心からお礼を申し上げます。

「2015 紀の国わかやま大会」を振り返って



品田 吉博

札幌市障がい者スポーツ協会 理事／札幌陸上競技協会 会長

紀の国わかやま大会“躍動と感動、そして絆”を視察して

全国都道府県並びに政令都市から、約5500名の選手・監督が集い、盛大に大会が開催されました。私は、卓球、水泳、車いすバスケット、ボウリング、サッカー、陸上競技の会場を視察しましたが、どの会場も選手、監督、役員、ボランティア、応援の方々と溢れかえっており、熱戦が繰り広げられておりました。競技内容も全国大会にふさわしくハイレベルであり、選手、監督の緊張した面持ちや競技終了後の充足感や悔しさをかみしめる表情、そして競い合った選手同士やボランティアさんとの交流など、様々なドラマを窺い見ることができました。

札幌選手団はどの競技においても活躍し、レベルの高さを感じさせてくれました。選手同士が互いに声を掛け合い、励まし合い、応援し合って大変雰囲気の良い環境を作っておりました。全国大会での活躍という大きな目標に向かって苦楽を共にし、努力を継続してきたスポーツマンとしての凛とした素晴らしい姿を感じることができました。まさに、大会のスローガンである、選手たちの躍動とたくさんの感動、絆を感じ取れる素晴らしい大会でありました。

選手の皆さんには、わかやま大会を糧に、これからもスポーツを楽しみ、心身を鍛え、さらなる目標に向かって充実した日々を過ごしていただくことを願っています。



早崎

勝

陸上コーチ

第15回全国障がい者スポーツ大会（紀の国わかやま大会）に札幌選手団陸上コーチとして参加させていただきありがとうございました。

普段は陸上競技の審判員として活動しておりますが障がい者スポーツ大会（すずらんピック大会）は年1回の活動です。

いろいろな障がい者スポーツ種目があることは知っていましたが接する機会が少なかったと思います。今後は率先し参加したい。

機会が有り参加させていただき他府県の陸上審判員の障がい者に対するの活動を見る事ができ大変参考になりました。

札幌市選手団は強行日程でありながら、トラック競技8種目・フィールド3種目でメダル22個・大会新2、大会タイ記録タイ1、と躍進し身体の不調を訴える選手も無く、よく頑張ったと思います。感激しました。



宝澤

彩加

陸上コーチ

今回、初めて札幌市選手団の引率をさせて頂きました。日頃から障がい者スポーツに携わっているものの、陸上競技の専門的な知識は乏しく、不安がありました。しかしながら、これほどの素晴らしい大会に参加できたことを、とても光栄に思っております。サポートする側にもかかわらず、選手たちの活躍を見ている私の方が、元気と勇気を頂きました。ハンディを抱えながらも、スポーツを通して、様々な可能性を見出しているのだと感じました。結果の善し悪しも大切ではありますが、何かに夢中になり、これからもスポーツを楽しんでほしいと願っております。選手の皆様、役員の皆様、そして保護者様も大変お疲れ様でした。



佐藤

成恵

陸上選手

躍動と歓喜、そして絆

大会期間中は晴天に恵まれ、開会式でのLEVELVETSによる君が代斉唱は、会場の空気を一変させる緊張感と感動で背筋が引き締まりました。

十分な練習も出来ない中での大会でしたが、コーチをはじめ、皆さんの指導のお蔭で、50メートル走は、練習の時よりも1秒以上もタイムを縮める事が出来、大会タイ記録でした。数十年前の中学生の頃と同じタイムで、自分自身でもビックリでした。これからもスポーツを通して友好を深めていきたいと思ひます。大会に携わって下さった全ての方に感謝の言葉を届けたいと思ひます。ありがとうございました。



佐藤 明日美 陸上選手

私は、3回目の全国大会でした。

今大会では、1500mと800mに出場しましたが、納得のいく記録ができませんでした。4×100mリレーにも出場しました。1位を取ることができ、タイムも良くて嬉しい気持ちもあるのですが、バトンパスで少し失敗してしまいました。

悔いの残る大会になってしまったので、練習や自主トレーニングをして、また全国大会に出場したいと思います。

大会を通じて知り合った選手やコーチ、ボランティアの皆様ありがとうございました。



高橋 ちか子 水泳コーチ

2015紀の国わかやま大会に6日間の日程で、札幌選手団の水泳コーチとして参加させていただきました。会場是和歌山県秋葉山県営水泳場で、杉の香りのする可変床の最新プールで、閑空内のホテルから片道40分かけてプールに通い、バスの中から和歌山城が遠望できました。選手の皆さんはホテルの美味しい食事でも自己管理を忘れず、出場する競技に集中し、自己ベスト、大会新、メダル獲得など大変立派な成績を残しました。力泳した3日間、選手8名はとても輝いていました。

選んでくれた協会の皆さんや支えてくれた家族に感謝し、思い出を沢山詰めて元気に帰って来ました。



富樫 航太郎 水泳選手

全国障害者スポーツ大会に参加して

私は今回、全国障害者スポーツ大会の札幌選手団身体水泳代表として参加しました。そこで、25m自由形、50m背泳ぎに出場しました。いつもの大会とは違い、楽しめる雰囲気で開催されていました。水泳チームは知り合いの方が多く、チームの雰囲気は良いものでした。そんな中で行われた競技は、2種目とも目標の自己ベスト記録を更新することが出来ました。しかし、50m背泳ぎの腕のピッチがまだまだ遅く課題も残る大会となりました。これからは、もっと練習して世界と互角に戦えるよう、努力していきます。札幌選手団役員の皆様、コーチ、和歌山のボランティアの方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。



山岸 保輝 水泳選手

今回、和歌山県で開催された第15回全国障害者スポーツ大会に水泳選手として初めて参加させていただきました。全国に出たかったので、とてもうれしかったです。団体行動は、あまりなれていなくて少しきんちょうしましたが、とてもいい経験ができて、とても良かったです。2種目にでて、1種目メダルがとれて、とてもうれしかったです。今度またでれたら、2種目メダルがとれるように頑張りたいと思います。コーチの方々にも大変お世話になりました。ありがとうございました。あつという間の6日間でした。とても楽しかったです。またすずらんピックに出場して頑張ります。本当に全国障害者スポーツ大会に参加できてよかったです。



安藤 孝志 卓球コーチ

今回で7回目の引率となる全国障害者スポーツ大会(紀の国わかやま大会)は、温暖な気候だけでなく、ボランティアとしてサポートしていただいた方々も温かく、私達札幌選手団を迎えていただきました。引率のたびに感じることは、スポーツを通して現地の方々と交流を深め、和歌山の文化を知ることができ見聞を広めることができたことです。大会を通して知り合った鳥取県の役員とは、是非東京パラリンピックに選手を送り出したいと話していました。卓球だけでなく、札幌選手団の中から、日本の障害者スポーツを背負う選手が出てくることを期待します。



大塚 肇 卓球選手

紀の国わかやま大会に出場させて頂いて

この度、第15回全国障害者スポーツ大会の一般卓球に出場させて頂きました。全国のレベルは高く、コーチのアドバイスにより1位になる事ができ感謝しています。改めて試合の厳しさ、精神面の弱さを痛感致しました。この教訓を胸に、今後の練習に励みたいと思います。又、一球ごとに躍動し、勝利に歓喜し、選手や大会関係者との絆を深める事ができ、「わかやま大会」のスローガンである『躍動と歓喜、そして絆』を実感した事は、一生忘れないと思います。最後に、大会に出場するにあたり、協会の皆様、コーチ、職場の皆様に、ご支援を頂き心より感謝致します。



青木 佑季 卓球選手

紀の国わかやま大会で印象に残った事が三つあります。一つ目は結団式で選手宣誓の大役を無事果たせた事です。二つ目はお世話になった担当のボランティアさんだけではなく他の県のボランティアさんや役員の方々が試合後も席まで来てくれて激励してくれた事です。そして三つ目は健闘むなしく銀メダルだった事です。絶対札幌に金メダルを持ち帰りたかったのにとっても残念です。しかし、この悔やしくて泣いた経験のおかげで私はさらにがんばる気持ちになりました。

お世話になった方々への感謝の気持ちと悔やしかった思いを胸にこれからも卓球をがんばります。暑かった和歌山の青い空は一生忘れる事のない思い出です。



米津 洋孝 フライングディスクコーチ

第15回全国障害者スポーツ大会に参加して

この度は（紀の国わかやま）に選手3名のコーチとして、選出していただきまして誠にありがとうございました。大会が始まり選手のメンタル・健康面を支え、無事に大会を終了できました。時折強風も吹き刻々と変わる環境の中、札幌市担当ボランティア様の気配りや見ず知らずの方々の応援に非常に感激いたしました。勇気をもらい選手をレースに送ることが出来ました。本大会を通し、絆・そして様々な方々との交流は生涯忘れられない思い出になりました。このような機会を与えて頂き、感謝するとともに、この大会を支えていただきました関係各所様本当にありがとうございました。



米津 之正 フライングディスク選手

第15回全国障害者スポーツ大会（わかやま）大会に参加して

私はフライングディスク競技に、参加させていただきました。沢山の人達との出会い、大会ボランティア・役員さん、特に札幌市フライングディスク担当のボランティアさんに支えられ、安心して競技が出来ましたことに、感謝いたします。また札幌市選抜のプレッシャー・ナイターや強烈な横風など、経験のない環境のレースでしたが、応援していただいた方々を思い、全力の投てきをしました。結果自己新で年齢が行ってもこの競技は続けられると感じました。本大会に参加及び交流ができたことは、これからの仕事もやればできる精神で頑張れます。お世話になり、ありがとうございました。



古川 毅 フライングディスク選手

全国障害者スポーツ大会に参加して

はじめて全国大会に出場しました。24日の開会式では、きんちょうして行進しました。アキュラシー競技では、10投入り、1位になりました。ひのきの金メダルですごくうれしかったです。このメダルも代表さんの熱心な指導やコーチの応援があったから、とることができたと思います。

ディスタンス競技は練習をがんばっていきたいです。スタッフさんやボランティアさんたちがやさしくて、親切でした。

全国の選手や多くの人たちに会えてこの大会は心に残る多くの思い出ができました。ありがとうございました。



佐藤 敦 ボウリングコーチ

全国スポーツ大会（和歌山）に参加して良い経験になりました。私は、ボウリングコーチとして参加して、2名の選手と行動をしました。和歌山のボランティアさんもとても良くしてくれて、和歌山もとても良い所で良かったです。ボウリングの大会で、1人は銀メダル、1人は7位でしたが本人たちも、とても満足して、大会を終えることができました。彼らにとっても良い経験になったことだと思います。



高橋 秀治 ボウリング選手

大会に参加して、開会式にたくさんの人があつまり、テレビで見た歌手の歌も聴け感激しました。ボウリングでは会場が大きく緊張して力はいってしまいました。和歌山は暖かく名物のみかんの木が会場にありました。みかんはとって食べてもいいとのこと、たくさんとって食べ、おみやげにもしました。行く前は、少し不安もありましたが同室の人たちとも仲良くなれ、打ち上げを3人でお好み焼きとビールで楽しかったです。修学旅行以来の飛行機での長い旅行は大冒険でした。今までみたことのない景色やおいしいごちそう、たくさん仲間との交流という大きなプレゼントをもらいました。お世話してくださった皆様にへんありがとうございました。

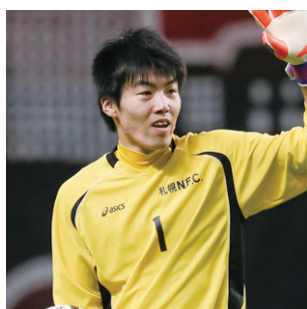


笹本 大輔 サッカーコーチ

全国大会の感想

昨年、優勝からの今年は「準優勝」という結果。やはり、東京は本当に強いチームでした。また、各県が非常にレベルアップしてきています。最近の大会では、好成績を残している札幌ですが、もっとチームを強化していかなければならないと感じました。

大会中の選手たちの表情や行動を見てみると、サッカーが彼らの生活の支えになっているということや、サッカーを通しての心の成長を感じます。私は、高等養護学校（高等支援学校）に勤務していますが、支援学校に通う生徒たちが、思い切り、スポーツに打ち込めるような、場を提供したり、学校同士がつながりをもって、スポーツができる環境を整備していくことが必要だと感じました。このような大きな大会に参加させて頂き、ありがとうございました。



依田 航 サッカー選手

全国大会の感想

10月23日から10月26日まで和歌山県でおこなわれた全国大会に出場しました。

僕たちサッカー札幌市代表は準決勝からの試合で沖縄県と試合して3対0で勝ちました。決勝は東京都と試合しました。

前半3対0、後半1対0で結果4対0で東京都に負け準優勝でした。結果は準優勝の悔しい結果になったけど選手みんな頑張っていていい試合になったし課題も見つかった試合だと思う。来年こそ全国大会優勝を目指して選手みんな練習して日本一のチームになります。これからも監督、コーチ、スタッフ、サポートしてる人たちに感謝してサッカーをします。



佐賀 義之 介助員 札幌市障がい福祉課

紀の国わかやま大会に出場された札幌市選手団の皆さん、ご活躍おめでとうございます。私は介助員として選手団に同行させていただきましたが、この6日間で、普段味わうことのできない貴重な経験を得ることができました。和歌山県の方々の温かい歓迎や華やかな開会式、選手団一丸となつての手に汗握る応援など、皆さんと分かち合った喜びと感動は、素晴らしい思い出として心に残っています。

大会期間中のたくさんの交流を通じて様々なことを学ばせていただき、人と人との絆を結ぶスポーツの力を改めて実感することができました。皆さんとの出会いに心から感謝しています。